

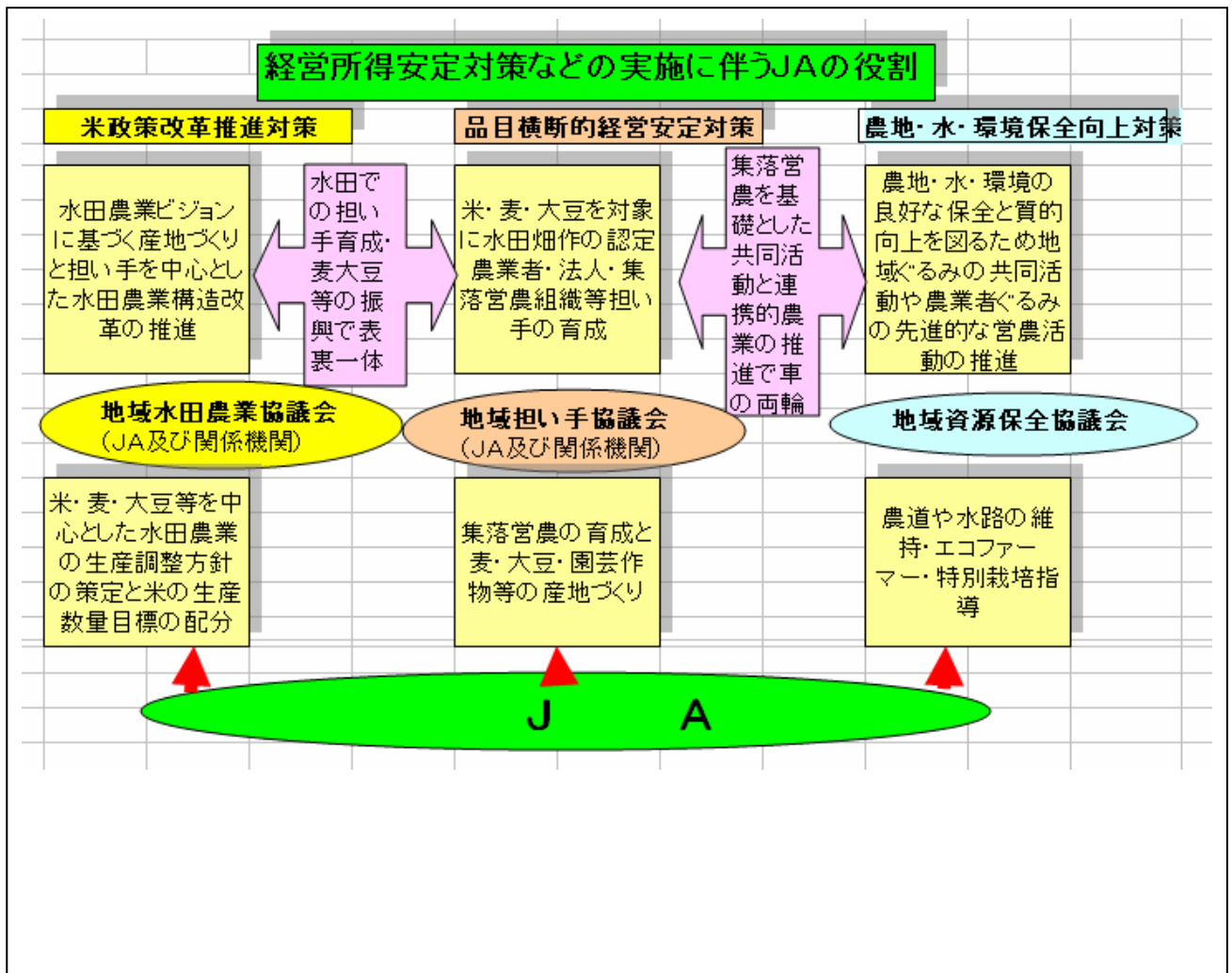
(シリーズ) 農政の大転換へ
向けた J A グループ福島
の取り組み

集落営農のあるべき姿などを提言するため、J A グループ福島が、今までに取り組んできた事例の報告などを通じて、さまざまな課題や新たな動きをシリーズで紹介する。第1回は、背景と取り組み方針。

昨年度から国は農政の大転換を行う。従来の価格政策から、担い手の経営に着目した所得政策に転換する。

品目横断的経営対策が実施されることから、J A グループ福島は、認定農業者の育成を来年度から進める一方、認定農業者だけでは水田や畑を維持できない地域で、小規模農家や兼業農家も担い手とする集落営農を推進することが、県農業・農村の持続的な発展にとって最も重要な取り組みとして進めている。

昨年度から、J A グループ福島は組織をあげて、① J A 福島中央会と J A 全農福島が一体となり、効率的な指導を目指す県域営農センターの設置②集落営農・担い手育成に向けて J A での専任体制の確立③水田や畑の貸し借りを仲介する J A の農地保有合理化法人の構築④集落営農の経営や品目横断的経営安定対策手続きの支援⑤集落営農を進めるため、助成支援体制の構築—など、県や市町村と連携して取り組んでおり、今後体制をさらに強化する必要がある。



JAグループ福島県域営農センター・福島県水田農業産地づくり対策等推進会議

(福島市飯坂町平野字三枚長1-1 TEL 024-554-3072 FAX 024-554-6022)

<http://www.ia-fc.or.jp/tyuou/onchu/index.html>

有限会社「恵のファーム」設立！（新地町岡地区）

新地町岡地区では県営担い手育成基盤整備事業（平成 8～15 年）を契機として、集落の合意による農地の有効利用と農業生産力の向上を目的に、地域の農家 117 戸が参加して「岡地区営農改善組合（平成 13 年 2 月）」を設立しました。これにより、地域の農地利用調整が可能となり、担い手への農地集積やブロックローテーションによる大豆の集団転作等が行われるようになりました。さらに、平成 19 年度に品目横断的経営安定対策が導入されることを見据えて、昨年からの加入を目指した話し合いが行われてきた結果、これまでは担い手組織「岡地区農業経営者会」が作業受託により大豆栽培を行ってききましたが、認定農業者が中心となって平成 18 年 4 月に有限会社「恵のファーム」を 6 名（役員 5 名、出資者 1 名）で設立し、大豆栽培を行うこととしました。今後は、大豆生産を基盤として①農地集

積による効率的な生産の実現②担い手や後継者の確保③的確な経営管理を目指すとともに、事業の多角化（味噌加工・販売、稲作も含めた受託作業等）を進めることにより、地域参加型の集落営農を確立し、地域農業の維持・発展に貢献していきたいと考えています。

今年度は県単事業「担い手組織支援事業」と「地域ぐるみ大豆生産拡大事業」にも取り組んでいます。



ミュージカル「なんじよすっぺ、おらほの集落営農」

劇団ぜんとうようくらぶ（岩手県花巻市）

新たな経営所得安定対策を題材にした、ミュージカル「なんじよすっぺ、おらほの集落営農」が話題になっている。制度の説明だけでは分かりにくい集落営農への取り組みを、お芝居でわかりやすく理解してもらいたいと劇団「ぜんとうようくらぶ」志村尚一代表が脚本を書き下ろし、全国各地で公演しているものだ。劇中では、農家が不安に思っていることや同対策への疑問、不満などが次々と出される中、地域おこしアドバイザー役が、「集落営農を補助金をもらうためだけの手段にしてはだめ。身近な問題を集落で話し合うことから始めよう」と提案し、同対策を前向きにとらえ将来の地域農業を築いていくことの重要性を訴えている。「品目横断的経営安定対策」の仕組みやポイントもわかりやすく解説しながら、「集落営農や農村を活性化させるための、自分たちが今より幸せになっていくための大きなきっかけにしていこう」と心をつなげていくまでの人間模様が泣き笑いたっぷりに描かれている。これからも本県を含む全国各地で公演が予定されている他、同内容のビデオも好評発売中。地域の集落営農の育成のための参考になると考えます。

演劇公演・ビデオ販売問い合わせ先

〒025-0074 岩手県花巻市坂本町 3-26

（有）ウイルビー Tel:0198-22-2071

